

岩井コスモ投資情報

NO.263

2023.3.27

トピックス

相場見通し・タイムテーブル
例年通り彼岸底パターンに

Sample

銘柄紹介

三井化学
グローバルセキュリティエキスパート
日本製鉄
フジクラ
ニチコン
BuySell Technologies
南海電気鉄道



岩井コスモ証券

相場見通し

Sample

米国の中堅地方銀行であるブリュンバレン・バンクの経営破綻に続き、欧州の大手銀行クレディ・スイスにも経営不安が存在して、世界的な金融不安が内外の株式市場を襲った。特に日本株については、3月に入ってから急上昇の反動もあり、日経平均が5日間で約2,000円下落するなど、下値模索の様相を強めた。ただ、米国やスイスの政府、金融当局による異例とも言える素早い対応を受けて、世界の金融市場は落ち着きを取り戻しつつある。

米国では破綻した銀行における預金の全額保護やFRBによる緊急融資枠の設定など迅速で大規模な施策が打ち出され、スイスでは当局の主導によりクレディ・スイスの大手金融グループUBSの傘下入りが決定、不安の連鎖による金融システムの機能不全は、とりあえず回避された。ただ、漠然とした不安は燻っており、しばらくは折に触れて株式市場の弱気材料として意識される可能性はある。一方で、突然の金融不安が浮上したことを受けてFRBが今後の利上げに対して慎重な姿勢に傾く可能性もあり、金融政策に対する思惑が株式市場の物色動向に影響を及ぼしそうだ。

世界景気の先行きに不透明感が増してきたことで、年初から上昇トレンドを続けてきた日本の景気敏感セクターにおいては、先行きの業績不安と指標面での割安感とが綱引きをする中で、やはり業績を手掛かりにした選別色を強めていくだろう。一方で、冴えない動きが続いたグロース株の中には見直されるものが目立ってきてきそう。決算対策の売りや持ち合い解消の売りなど期末に伴う需給悪は一巡したと思われ、新年度相場に向けた新たな資金流入による相場の底上げを期待したい。

(有沢正一)

タイムテーブル

3月27日 ★ 2月企業向けサービス価格指数 ★ 文化庁が京都に移転して業務開始 ☆ 米、3月ダラス連銀製造業活動指数	4月3日 ★ 日銀短観（3月調査） ★ 3月と2022年度新車販売 ☆ 中国、3月財新・製造業PMI（マーケット）
28日 ☆ 米、1月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 ☆ 米、3月リッチモンド連銀製造業指数 ☆ 米、3月消費者信頼感指数	4日 ★ 3月マネタリーベース ☆ 豪中銀が金融政策発表 ☆ 米、2月製造業受注
☆ 米、1月FHFA住宅価格指数	5日 ☆ 米、2月貿易収支 ☆ 米、3月ISM非製造業景況指数
29日 ☆ 米、2月中古住宅販売成約指数	☆ 清明節で中国市場休場
30日 ☆ 米、10-12月期実質GDP確報値 ☆ メキシコ中銀が金融政策発表	6日 ☆ 中国、3月財新・非製造業PMI（マーケット）
31日 ★ 3月東京都区部消費者物価指数 ★ 2月失業率・有効求人倍率 ★ 2月鉱工業生産指数速報値	7日 ★ 2月毎月勤労統計 ★ 2月家計調査 ★ 2月消費動向指数（総務省）
★ 2月卸売業販売額・小売業販売額 ★ 2月住宅着工戸数・建設工事受注 ☆ 中国、3月製造業PMI（国家統計局） ☆ 米、2月個人所得・支出/PCEデフレーター ☆ 米、3月シカゴ購買部協会景気指数	★ 2月景気動向指数 ★ 2月消費活動指数（日銀） ☆ 米、3月雇用統計 ☆ 聖金曜日で米市場休場（為替は通常取引）

★は国内、☆は海外

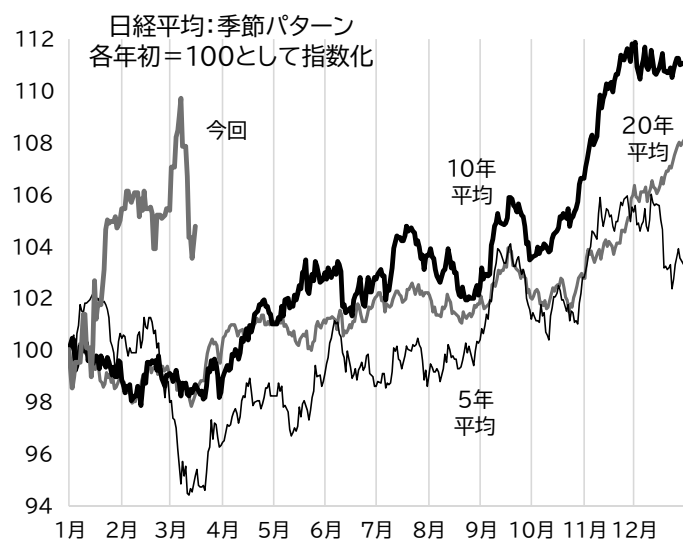
例年通り彼岸底パターンに

思わぬ欧米銀行の連鎖破綻に揺れた3月相場となったが、日本株は日前半に世界のリード役だった反動もあって全米圏で最も劇しい下押しを余儀なくされた。米金利急低下に伴う円高進行や日銀政策維持（緩和継続）も重なり、また、28,000円/ドルでの天井形成となったが、ファンダメンタルズの優位性（景気、業績、割安）を支えに早晩戻り相場に回帰すると予想している。金融当局の迅速な対応や破綻銀行の特殊性などから広範囲の金融システム不安に突入する懸念は小さく、米インフレ懸念の和らぎもあって、内外市場ともに調整長期化となるリスクは限定的と考える。

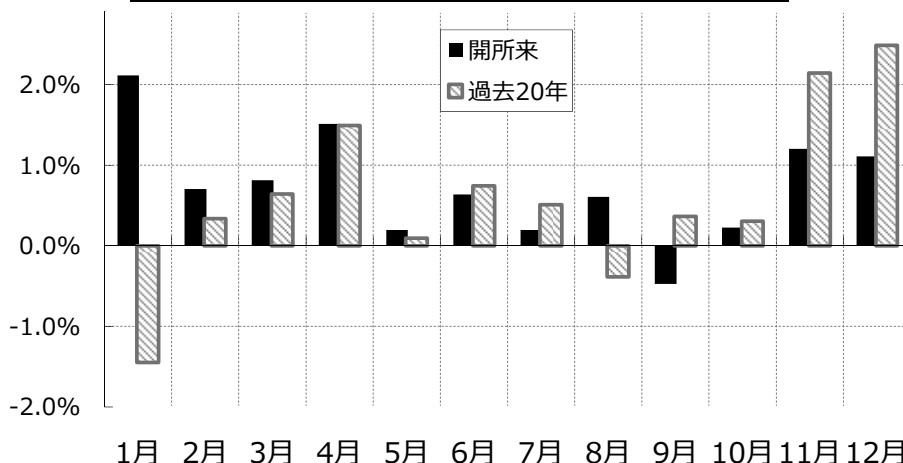
相場リズムから見ても3月半ばの相場波乱は比較的確度の高い底入れ形成となることが期待される。日米株価はともに昨年初めから「三月またがり六十日」「小回り三月」といった相場格言通り、概ね3月、6月、9月、12月と3ヵ月毎の底打ちを繰り返しており、3月後半から4月上旬にそのタイミングが到来する。過去の平均的な株価の季節パターン（図1）でも、いわゆる「彼岸底」（今年は3/18～24）と呼ぶに相応しい格言に沿った値動きを辿るケースが多い。

決算期末接近に伴う様々なポジション変更や配当権利の集中シーズン間近という点などが背景と見られるが、いずれも4月の好成績（開所来では1月に次ぐ2位の平均上昇率）に繋がる底入れとなりやすい。東証主導の企業統治改革の一環として、この春にもPBR1倍割れ企業の撲滅を目指したROE（自己資本利益の）改善方策が発表される見通しであることも日本株見直しの追い風となりえよう。（林 卓郎）

（図1）



（図2） 月間株価騰落率の過去平均（日経平均月末値ベース）



出所: QUICK データなどをもとに岩井コスモ証券作成

Sample

「プラスネット」口座を開設することで、投資調査部アナリストが作成したアナリスト銘柄情報などのレポートを当社ホームページでご覧いただけます。詳しくは担当者にお尋ねください。

■留意事項

本資料は情報の提供のみを目的としたもので、投資勧誘を目的としておりません。本資料は企業取材等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また掲載された意見は、作成日における判断であり、予告なく変わる場合があります。株式には、株価変動により、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。

本資料に記載された銘柄の証券について、岩井コスモ証券では買い持ちまたは売り持ちのポジションを有している場合があります、今後自己勘定で売買を行うことがあります。また、岩井コスモ証券の役職員が買い持ちしている場合があります。

本資料は岩井コスモ証券の著作物であり、当社の事前の承諾なく、本資料の全部または一部を引用または複製、転送などを行うことを禁じます。

発行 岩井コスモ証券株式会社 営業企画部
〒103-8207 東京都中央区日本橋茅場町 1-7-3

編集 岩井コスモ証券株式会社 投資調査部
〒103-8207 東京都中央区日本橋茅場町 1-7-3

公式LINE
アカウント

セミナー・キャンペーン情報を
スマートフォンへお届けします。→

